



明治36年に建てられた旧聖堂

鯛ノ浦教会

上五島・長崎巡礼⑫



五島列島で二番目に大きく、南北に細長い中通島のほぼ中央に鯛ノ浦教会がある。

明治六年の禁教令撤廃後、上五島の布教の中心だった教会で、明治十四年にパリ外国宣教会のブレル神父によって建てられた。日本にキリスト教を伝えたのはイエズス会のフランシスコ・サビエル。徳川幕府の鎖国政策が改められた後、最初に日本に来たのはパリ外国宣教会の神父たちである。カトリック教会の修道会は創立の目的がそれぞれ異なる。パリ外国宣教会は東南アジアへの宣教を目的に創立された修道会で、フラ



左の胸像がブレル神父

ンスの宣教師が多い。当時、西欧諸国に比べて貧しかった日本、教会などが建てられる際は外国人宣教師が自国から寄付を集めて建てられることが多かった。鯛ノ浦教会が明治三十六年に建て替えられた際も、ブレル神父と同じ会のグレン神父が資金集めに奔走されて建設された。その建物は今も図書館として使用されている。

最初の鯛ノ浦教会の主任神父となったブレル神父は明治九年に二十九歳の時に来日した。それから九年間、へき地の上五島での宣教に命を捧げ、三十八歳の若さで殉教した。ブレル神父をはじめ当時の外国人宣教師の伝記を読む時、なぜそのような崇高な志を持つて生きられたのだろうかと感動させられる。

今の世の中は人類史上かつてない便利で豊かな社会になっていて、貧富の格差がひどく、利己的な人間が多い。その原因は何なのだろうかと考えながら鯛ノ浦教会に入った。昭和五十四年に新しく建てられた教会は、白を基調にした実にスマートな教会である。いつまでも外国からの支援に頼ってはいけな

いと、信徒が一世帯当たり八十万円を出し合って建てられた。聖堂内部の天井はこうもりを連想させる「リブ・ヴォールト式」と呼ばれるもので、教会以外には見られない型のものである。今は図書館として使われている旧聖堂の前には四人の像が建っている。一段と高い像は五島出身の二十六聖人の一人、ヨハネ五島の胸像が

鯛ノ浦教会の初代主任神父であるブレル神父だ。ブレル神父は教会だけでなく、養育院も建てている。当時五島では長男以外の子どもを間引きといつて殺していたことに心を痛めて建設された養育院は、今も「希望の灯学園」としてその事業は継続されている。宗教を超えた外国人宣教師の人間愛に感銘を覚えたのである。（元山口放送取締役ラジオ局長）



コウモリ天井とも呼ばれる現在の教会の天井

現在の教会の天井